

Hukutana

17

December 2000
2000年 12月

ふくたな

- 1... 皆川昇 MINAKAWA Noboru
マラリア蚊にさされないためのアドバイス
Against Malarial Mosquitoes
- 4... 第139回 学振セミナー 139th JSPS Seminar
平田浩司:ウガンダにおけるローカル・ポリティクスと王国の伝統
HIRATA Koji: Local Politics and the Tradition of Kingdoms in Uganda
- 3... センター往来 Visitors
- 5... センター行事 Meetings, Activities
- 6... 編集後記 Editor's Note

日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターニュースレター

Malaria

マラリア蚊にさされないためのアドバイス

マラリア蚊の習性、生活史、分布、防衛法など

皆川昇

マラリア原虫は、常に新しい薬に対して耐性を作り出すため、治療方法は頻繁に変わります。その地域にあった最新の治療法を行わなければ、死亡率は非常に高くなります。ちなみにクロロキンは、ケニアではほとんど効果がなくなっています。予防薬(メフロキン等)も完璧なものも存在しません。ワクチンもいつできるかあてもありません。よって、マラリア媒介蚊に刺されないことが一番です。ここでは、刺されない方法を蚊の生態をもとに紹介いたします。

マラリア媒介蚊であるハマダラ蚊は、頭を下げて尻を突き出して止まるのが特徴で、イエカよりやや黒っぽく小さめです。羽に白い点がついているのでその名があります。ケニアには主なマラリア媒介蚊が3種いますが、そのうち *Anopheles gambiae* と *A. arabiensis* という種が、数的にも多く気をつけなければなりません。ビクトリア湖沿岸、ケニア海岸は、*A. gambiae* と *A. arabiensis* の混成地域です。高地(1500メートル以上)は、主に *A. gambiae* になり、大地溝帯では、*A. arabiensis* だけになります。*A. gambiae* は、主に人間

を刺します。*A. arabiensis* は、人間と家畜を刺し、家の中はもちろん外でも刺します。当然、*A. gambiae* の保虫率は高くなり、高地で蚊が少ないからといって油断はできません。

近年は、2000メートルを越える高地でもマラリアの犠牲者が急激に増えています。しかし、高地での蚊の発生は、雨期に集中しておりより季節的といえます。ただ、高地の雨期は、低地ほどはっきりしておらず、だらだらと大雨期が8月までのびることがあります。低地でも、季節的な蚊の数の変動がありますが、乾期でもある程度の数はおり油断はできません。特に近くに湿地があるような所では、乾期でも蚊の数は多くなります。

マラリア蚊は、産卵から早くて1週間で成虫になります。捕食者の少ない小さな水たまりで育つため、水たまりが乾燥する前に成虫になってしまわなくてはならないからです。よって、雨期に入って2-3週間目には、マラリアを流行させる数がそろそろことになります。家の近くに水たまりがあるときは、すぐに土をか

けるなどしてなくしておくことが大切です。日当たりのよいところにできた牛や人間の足跡なども水がたまると格好の繁殖地になります。ちなみに、マラリア蚊の幼虫は、きれいな水を好むため、汚染の激しいナイロビでは少なくなっているようです。

マラリア蚊のメスは、吸血のために家に入り込みそこで卵を成熟させます。卵が体内で成熟するには、2-3回吸血しなければなりません。また、環境がよければ、何度も産卵するのでそのたびに吸血します。つまり一匹の雌で何回も人間を刺すことになり、一人の感染者から何人もの人に感染することも十分に可能です(蚊は、生まれたときにマラリア原虫を持っていません。保虫者の血液を吸うことにより原虫が体内に取り込まれます。いってみれば蚊は人間からマラリアをうつされるわけです。蚊が人を刺すときに、人間への感染が起こります)。蚊は、暑い日中は、家の中の薄暗いところでじっとしています。昼間に刺すことは希ですが、昼間でも家全体が薄暗いところでは、蚊が人を刺すときがあります(著者は、昼間に真っ暗なルオー族の家を訪れたときにマラリア蚊の猛襲を受けたことがあります)。蚊の活動は、日が暮れた後に活発になります。特に明かりを消して、ベットに入った後に活動が増します。日が暮れたら、外でも家のなかでも長袖、長ズボン、靴下をはくことです。ただ、薄い靴下は、効果が薄れるようです。刺されるところは、だいたい目の届かない部分で、長ズボン、靴下をはいていない場合、テーブルの下足とか、首などを刺されます。手は、露出していても、よく動かし、蚊がとまれば目に付くので刺されにくいようです。寝ているときも毛布から出ている足や手をよく刺されますので、暑くとも、是非、蚊帳を使用することを勧めます。特に殺虫剤をしみこませた蚊帳は効果満点です。蚊帳は、小さくなりますので、旅行中でも、携帯することを勧めます。宿泊地に蚊帳がない場合がよくありますので。蚊帳は、ナイロビにあるスーパーマーケットで買えます。さらにカトリ線香やカトリマットも実際に殺虫効果がなくとも(ケニアの裕福な家は日本の家より広いので効果が薄れる)蚊の活動を鈍くすることができます。蚊がいるようであれば、寝る前に殺虫剤をスプレーするのも手です。もちろん、スプレーした後は、部屋を閉め切って、別の部屋でしばらく待ってから入ります(お風呂に入る前にスプレーすると都合がよい)。

さらに、蚊が家の中に入らないことも考えた方がよ

いてしょう。昼でも窓やドアを不必要に開けっ放しにしないことです。窓には、網戸を取り付けることを勧めます。ドアや窓の隙間からも入ってくることもありますので、蚊が目立つようでしたらテープやタオルで隙間をなくして下さい。蚊がドアの外側にとまっていたときは、開けたときに入ることがあります。ときどき、すばやくドアを閉めて外に出て、蚊がドアやドア付近の壁にいないかチェックしてみてください。気になれば定期的に殺虫剤をスプレーするのも手です。特にアパートなどで階段とドアの構造上、蚊の吹き溜まりのようになってしまう所があります。

上記のアドバイスは、蚊に刺されないためには、当たり前のことかもしれませんが、めんどくさくなってなかなか毎日実行できないものです。マラリアにかかっても適切な治療を行えばほとんどの人が助かります。しかし、その適切な治療ができない場合もあります(特に日本で)。また、治療は、決して楽ではありません。特に、マラリア汚染地域を訪れる方は、上記のことを参考にして十分に気を付けて下さい。

関連記事
久保利夫(1999)「最近のマラリア犠牲者、予防法」ふくた一な, 10, 1-3
Dogra, O.S. and 黒須良玄(監修) (2000)「抗マラリア薬最新情報」ふくた一な, 14, 3

Against Malarial Mosquitoes

MINAKAWA Noboru

Main malaria vectors in Kenya are *Anopheles gambiae* and *An. arabiensis*. *An. gambiae* is anthropophilic, while *An. arabiensis* is zoophilic. These mosquitoes actively bite on human after dusk. For prevention, one should wear long sleeves, long pants and socks. Doors should be kept closed, and windows should be screened. Bed nets are also recommended.

センターより
蚊帳やシーツなどに染み込ませる殺虫剤を用意しています。お尋ねください。

Visitors

センター訪問者

October

10月

- 5 坂井紀公子 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
SAKAI Kikuko (Kyoto University)
- 22 藤江紀子 (国士館大学大学院理工学研究科)
FUJIE Noriko (Kokushikan University)
- 23 太田至 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
OHTA Itaru (Kyoto University)
- 28 西田正規 (筑波大学歴史・人類学系)
NISHIDA Masaki (University of Tsukuba)

November

11月

- 2 安仁屋政武 (筑波大学地球科学系)
ANIYA Masamu (University of Tsukuba)
- 20 鳥山寛 (長崎大学熱帯医学研究所)
TORIYAMA Kan (Nagasaki University)
- 20 平田浩司 (総合研究大学院大学文化科学研究科)
HIRATA Koji (Graduate University of Advanced Studies)

December

12月

- 11 Kanyunyi Basabose
(Centre de Reserche en Sciences Naturelles, Lwiro, Democratic Republic of Congo)
- 14 John Mbithi
(National Museums of Kenya)
- 18 宮本律子 (秋田大学教育文化学部)
MIYAMOTO Ritsuko (Akita University)
- 21 森元泰行 (東京農業大学大学院農学研究科 / 国際植物遺伝資源研究所)
MORIMOTO Yasuyuki (Tokyo University of Agriculture /
International Plant Genetical Resource Institute, Nairobi)
- 22 宮崎章 (Find Us in Africa, Nairobi)
MIYAZAKI Akira
- 27 足達太郎 (国際昆虫生理生態研究センター)
ADATI Tarô (International Centre of Insect Physiology and Ecology, Nairobi)
- 31 椎野若菜 (東京都立大学社会科学研究科)
SHIINO Wakana (Tokyo Metropolitan University)

第139回学振セミナー

演者: 平田浩司(総合研究大学院大学文化科学研究科 = 国立民族学博物館
/マケレレ大学マケレレ社会科学研究所)
演題: ウガンダにおけるローカル・ポリティクスと王国の伝統
場所: 日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター
日時: 2000年12月2日(土) 14時~16時
参加: 21名

Speaker: HIRATA Koji (The Graduate School of Advanced Studies = National Museum of Ethnology /
Makerere Institute of Social Research, Makerere University, Kampala, Uganda)
Title: Local Politics and the Tradition of Kingdoms in Uganda
Place: JSPS Research Station, Nairobi
Date: 2nd December 2000 (Saturday), 14:00 to 16:00
Participants: 21 persons

0. 国家と国民社会 "State" and "Society of Nation"

1. 諸王国 the Kingdoms

南部と北部 the North and the South

- a. ブニヨロ Bunyoro / b. ブガンダ Buganda / c. アンコーレ Ankole
- d. トロ Tooro / e. ブソガ Busoga

2. 植民地政策 Colonialism

法と議会 Law and Parliaments

3. 独立とオボテ大統領 Independence and President Obote

政党政治と憲法 Party Politics and Constitutionalism

4. NRM 政権 the National Resistance Movement

- a. RCシステム the Resistance Council/Committee System
- b. 「ポピュラー・デモクラシー」 "Popular Democracy"
- c. 王国の復活 Restoration of Kingdoms

5. ローカル・ポリティクス Local Politics

- a. マイロ・システムとキバンジャ・システム the *Mailo* System and the *Kibanja* System
- b. LCシステム the Local Council/Committee
- c. プロテスタントとカトリック the Protestant and the Catholic
- d. クラン制度 the Clan System
- e. 政党制のゆくえ One-Party Politics ?

ウガンダにおけるローカル・ポリティクスと王国の伝統

平田浩司

イギリス植民地政府は、南部ウガンダにおけるバントゥー系諸民族の政治体制を「王国」とみなし、協定や条約によってその制度を近代的「国家」として実体化させた。それら諸王国の、特にブガンダ王国のローカル・ポリティクスが軍事独裁政権期を経て、現在のムセベニNRM政権の地方分権策にまで、影響を与えている。現代のウガンダのローカル・ポリティクスにおいては、ちかごろ復活した王国、NRM政府のローカル・カウンシルズ(LCs)、キリスト教会、クラン、土地制度といった諸制度の競合と併存を見いだすことができる。

(案内状より)

Local Politics and the Tradition of Kingdoms in Uganda

HIRATA Koji

The British colonial government has regarded the political systems of the Bantu peoples in Southern Uganda as 'kingdoms' of constitutional monarchies by agreements and treaties. The local politics of these kingdoms, especially of the Buganda Kingdom, have influenced the policy of local governance and decentralization in Uganda since Uhuru. These are diverse and conflicting institutions in the local societies of Uganda nowadays, the restored kingdoms, the local Councils of the NRM, religious organizations, clanship circles and communities based on land tenure systems. We can trace most of these institutions to the strategy of the kingdoms in the colonial period.

(from the Invitation Letter)

大統領のいる国に王様たちがいることは、なかなか理解しにくいことです。ウガンダでは最近「王国」が復活し、地域の政治情勢はなかなか複雑です。平田浩司さんには野間奨学生で1年9ヶ月滞在、調査した現地の実情を報告していただきました。ヨーロッパでの国家の概念の成立から「王国」の成立、独立を経て現状に至るまでを政治学、社会学など広く社会科学に基づいての解説でした。

関連文献

平田浩司(1999)「ウガンダの政治システム」
ふくたーな, 13, 1-3

平田浩司(1999)「ブガンダ王国における土地制度」
アフリカ研究, 55, 67-79

Mr. HIRATA presented an introduction to the political system of Uganda, based on sociology, politics and other social sciences. He lectured from the origination of the ideas of "nation" and "state" of modern Europe, to the present status of kingdoms in Uganda. This is a report from his research, being a research fellow of Norma Scholarship offered from Kodansha, Japan.

Further Reading

HIRATA, Koji (1999) The Political System in Uganda. *Hukutana*, 13, 1-3

Meetings, Activities センター行事

- 10.18 研究者宿舍賃貸借契約更新(2002年12月末日まで)
- 10.27 National Council for Science and TechnologyのWilliam Opiyo Omoto氏とケニア研究者の日本への招聘計画について協議 同件11.28及び12.04
- 11.13 マダガスカル共和国に固有植物相の調査、研究者の調査地視察 27日まで
- 12.02 第139回学振セミナー 演者平田浩司 詳細4頁
- 12.22 「ふくたーな」第16号発送
- 12.23 センター年末休業 31日まで
- 12.28 Eastern州Machakos県Machakosに研究者の調査地視察
- 12.30 Nyanza州Migori県Rongoに研究者の調査地視察 31日まで

編集後記

本号の発行日は旧年となっておりますが、謹んで新年あるいは新世紀のご挨拶申し上げます。皆様のご多幸とご研究の益々の発展を心からお祈りいたします。今後も引き続き、弊センターの業務にご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

◆HAL9000をのせて木星に向かうディスカバリー号は、現実のものとはなりませんでしたが、我々の科学と知性はこれからも輝かしいものであることでしょう。そして、来る世紀がヒトのみならず、全ての生物種にとって住みやすい地球になる時代の始まりとなることを生物学者として切に願います。

◆職員とクリスマスを祝い、日本人と新年を言祝い、センター事務所の大家にHinduのDiwaliの挨拶をし、ムスリムにはramadanがおわった喜びを伝える。この国がmulti culturalだと実感できるのは、「正月」が1年に複数あることです。

◆ICIPEの派遣研究員としてマラリア蚊の調査をされてきた皆川さんには、媒介者を寄せ付けられない点からのマラリア予防をアドバイスしていただきました。

◆マダガスカルでは、大陸とまったく異なる人々と文化にもまして、地球上でここにしかない生物たちに印象づけられました。

Bonne Année. Feliz Año Nuevo. Frohè ein Gutes Neues Jahr. Mwaka Mpya Mwema. A Happy New Year or Century, and hoping a brilliant future for you and your research.

Though the *Discovery* with HAL9000 heading to Jupiter did not come out true, our science and intelligence may still be brilliant in future. The coming century will and should be the beginning of a period of true cohabitation of all species on the earth, not an anthropocentric habitat. As a biologist, I seriously hope.

This country is multi cultural, therefore I am strongly imposed by the existence of three "new year"s in a year, i. e. Western or European Christmas and new year, Hindu's Diwali and Muslim's ID-Mubarak.

Dr. MINAKAWA, an ex-research fellow of the International Centre of Insect Physiology and Ecology working on malarial mosquitoes, is kindly advising us to protect ourselves against the disease, by getting away from vector insects.

I, a botanist, was greatly impressed by the flora and fauna of Madagascar, as well as her people's highly complex culture and modesty, which are quite different from that of the African continent. In that country, several parties of Japanese researchers and NGOs are working on biodiversities, which are highly unique on the earth and worth conserving from extinction. They are priceless and nothing else can compare to them and should therefore not be destroyed by *Homo sapiens*.

Editor's Note

2000 Japan Society for the Promotion of Science, Research Station Nairobi. All rights reserved

Hukutana No. 17

Bulletin of Japan Society for the Promotion of Science,
Research Station, Nairobi

Issued: 31st December 2000

Editor: MAKISHIMA Haruyuki

Publisher: JSPS Research Station, Nairobi, KENYA

Printer: Jarolin Enterprises, Nairobi, KENYA

For rights of reproduction, application should be made to the JSPS Research Station, Nairobi. The views expressed in the articles of this bulletin are those of the contributors and do not necessary reflect the views of JSPS.

ふくたな◇第17号

日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターニュース

発行日◇2000年12月31日

編集・発行者◇巻島美幸

発行所◇日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター

本誌の掲載記事を転載する場合は、事前にセンターまでご連絡下さい。本誌の中で署名のある記事についてはそれぞれの主張・意見は執筆者個人のもので、日本学術振興会の見解を反映するものではありません。

Phone: +254-2-442424; Fax: +254-2-442112; e-mail: jspst1@africaonline.co.ke

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE,

RESEARCH STATION NAIROBI

P. O. Box 14958, NAIROBI

KENYA

PAR AVION
VIA AIR MAIL